四つの季節の鉄道ものがたり

熱々のやかん

朝吹真理子

毎年、春休みになるとスキーをしに長野県の山奥まででかけていた。奥志賀高原の雪は、三月でもふかふかしているからいいのだ、と祖母が言っていた気がするけれど、私には雪のよしあしがわからなかった。スキーも悪くないけれど、ロッジの暖炉でぬくまったり、部屋の窓のつららを折って、ときどき舐^なつたりかじつたりしている時間が好きだった。部屋備え付けの冷蔵庫にはじめは驚いた。食べものを外に出しておく、真夜中にカチコチにかたまる。売店で買ったみかんを、母がよく凍らせて食べていた。

90年代初頭は、まだスノーボードよりスキーが主流だったと思う。祖母、いとこの兄二人、おじおば、父母、み

なそれぞれ好きなようにスキーを滑っていた。私は、毎日、スキー教室に通わされていて、足をハの字のポーズでおりるのだと教えてもらいながら、のろのろ、いちばん初心者が滑る第一ゲレンデを滑り降りてはまたリフトに乗るのをひたすら繰り返し返していた。先生は、私の足のフォームが崩れないよう、スキー板に手をそえつつ、後ろ向きに笑顔で滑っているのが怖かった。運動ができないくせにスピードを出したかったので、先生と併走するとき勝手にスピードを出してよく怒られた。学校でもスキー教室でもいつも怒られてばかりだった。

夜、家族揃って夕食をとっているとき、祖母が、やにわに、いとこのふたりの兄にむかって「せをはやみ」と

百人一首の最初の五文字を叫ぶ。そうすると、兄たちは即座に「岩にせかる滝川の」とつづく歌をそらんじなくてはならない。ごはんの最中にも、リフトに乗っていても、祖母の気まぐれで、百人一首の時間がはじまる。私は小さかったのですが、その憂き目にはあわずに済んだ。私が百人一首をとえなないといけない年齢になるころには祖母の体調が芳しくなくなり、スキーに行く習慣も途絶えた。そのころには、スキーはダサくて、スノーボードが主流に取り変わっていた気がする。

雪山で何日くらい過ごしていたのかは覚えていないが、雪山を降りることは、学校が始まることを意味するので、いつも下山したくなかった。帰りしな、毎年、立ち寄る蕎麦屋があって、そこ

イラスト・岡林玲

みんな

CONTENTS
Vol.
75
2021

◎日本民営鉄道協会とは？
1967年に社団法人として設立、2012年4月1日付で一般社団法人に移行、73社の民営鉄道会社で組織されています。
輸送力の増強と安全輸送の確保を促進し、鉄道事業の健全な発達を図り、もって国民経済の発展に寄与することを目的とした活動を行っています。
なお、JR各社や公営地下鉄などは加入していません。

で電車を待ちながら、一、二時間ほど過ごした。家族全員、蕎麦屋の御店主たちと仲良くなつていて、私が鴨南蛮をすすつていると、蕎麦屋のおばちゃんも、近くで採れた山菜を煮た瓶をいくつも渡してくれる。私は特に姫筍を醤油で煮たものが好きだった。もう春がきている、とおばちゃんと言う。

みていた。駅の売店では必ず熱々の緑茶を買ってもらった。柔らかいプラスチック製の簡易水筒に袋入りの茶葉が入つていて、やかんからお湯を注いでしめてもらう。プラスチックの底で茶葉を揉めるようになっていて、好きな濃さで飲めるので、洗茶好みの私は指があつくてヒリヒリするけれど、揉みに揉んでから飲む。電車のなかで飲み終えると、停車した駅の弁当売りが、おかわりのお湯をいっぱい注いでくれる。お茶であつたまると頬が真っ赤に

なつて、鼻水がたくさんでる。優しい声だけれど、鼻をすする音は罪深いことだと父親に窘められるので、おもいきりすすりたい気持ちをごらえて、鼻水を毛糸の手袋でぬぐう。緑茶をたんまり飲み終えると眠くなつてくる。窓はずつと雪景色がつづいている。私は、冬の色にしかみえないのに、雪の下のおちこちで山菜たちが芽を出している。蕎麦屋のおばちゃんの言葉を思い出すと、春のざわさわとした気配が雪の下で動いてみえて、すこし怖かった。

あざぶき まりこ

作家、東京生まれ。2009年、「流跡」で作家デビュー。2010年、同作で第20回 Bankamura ドゥマゴ文学賞を受賞。2011年「きこたわ」で第144回芥川賞を受賞した。2018年に小説「INTERESS」を発表。エッセイ集に「拙斗のなかの海」、最新刊に「たいちよことばめぐり」がある。

02 四つの季節の鉄道ものがたり 熱々のやかん

◎作家 朝吹真理子
基調報告⑤

04 新型コロナウイルスの地政学と 新常态の地域観光

◎株式会社日本総合研究所 首席研究員 藻谷浩介
「地域の公共交通を守り、観光振興に活かす取り組み」

08 特集／ウィズコロナの沿線観光振興と 鉄道利用促進

「地域の公共交通を守り、観光振興に活かす取り組み」

09 地域と公共交通を持続する

◎岡山電気軌道株式会社 代表取締役社長 小嶋光信
INTERVIEW COLUMN

13 カラフルで楽しい路面電車が走る観光のまち

◎公益社団法人 ちかやま観光コンベンション協会 専務理事 西正尚
TOP INTERVIEW II

14 唯一無二の観光エリアをつくる

◎島原鉄道株式会社 代表取締役社長 永井和久
INTERVIEW COLUMN

17 島原地域の公共交通を維持する

◎島原市役所 市長公室 政策企画課長 古賀英樹

18 TOP INTERVIEW III 地域に根差した 地方鉄道を守り続ける

◎弘南鉄道株式会社 代表取締役社長 船越弘造
INTERVIEW COLUMN
沿線地域と事業者で鉄道を支える
◎弘前市 都市整備部 地域交通課 課長補佐 羽賀克順・主事 信田洋平

22 MINTETSU REPORT 人を呼び込む鉄道のチカラ

人は密になってはいけないが、連携は密に
〈大井川鐵道〉
双方方向のツイッターでリアルを補完
〈岳南電車〉

28 連載⑨ 地方民鉄紀行 上毛電気鉄道株式会社

連載⑩ 民営鉄道の起源を訪ねて―鉄路は何を目指したか

30 和歌山電鐵 貴志川線

◎日本宗教史研究者 渋谷申博